

2025年3月期 第3四半期 決算補足説明資料

(2024年4月～2024年12月)

2025年2月7日

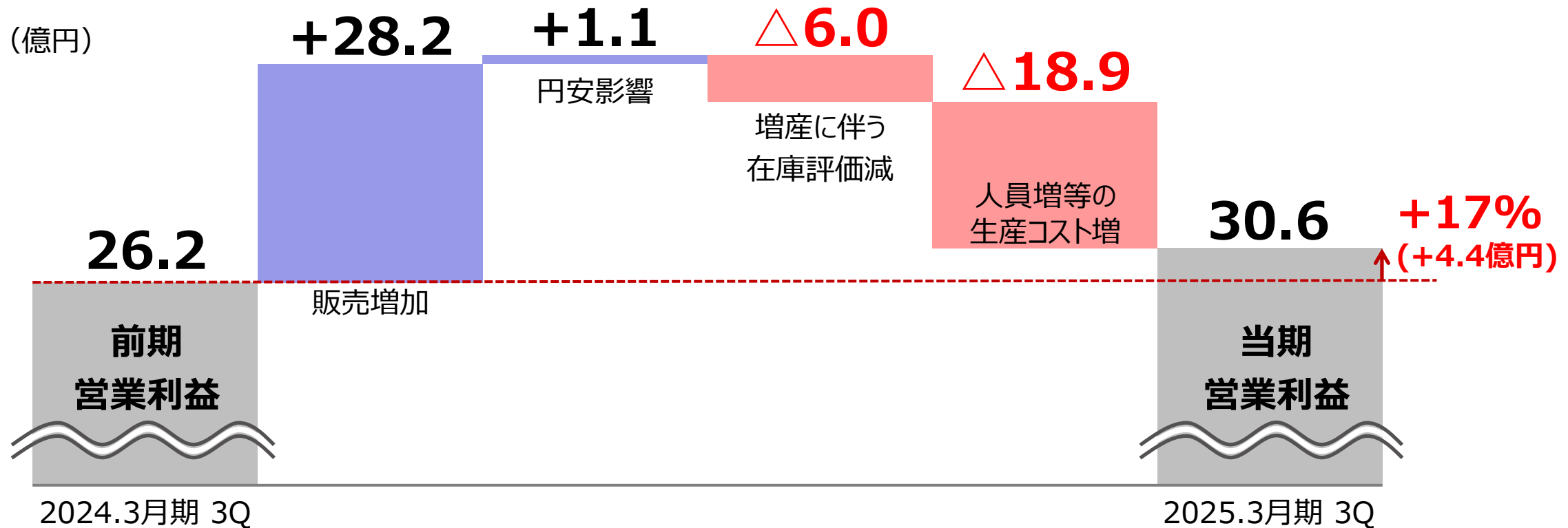
2025年3月期 第3四半期 業績概要

- 売上高は、旺盛なAI関連投資等を背景に先端半導体向け材料を中心に売上が拡大し、290.7億円、前年同期比+26%の大幅増収。
- 営業利益は、新設備の完成や人員増などによって大幅に固定費が増加したものの、売上増加により固定費増を吸収し、30.6億円、同+17%の増益。

(億円)	2024.3月期 3Q累計実績	2025.3月期 3Q累計実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	230.9	290.7	+59.7	+26%
営業利益	26.2	30.6	+4.3	+17%
経常利益	25.2	31.0	+5.7	+23%
純利益	17.2	20.8	+3.6	+21%
期中平均為替レート	¥143/\$	¥152/\$		

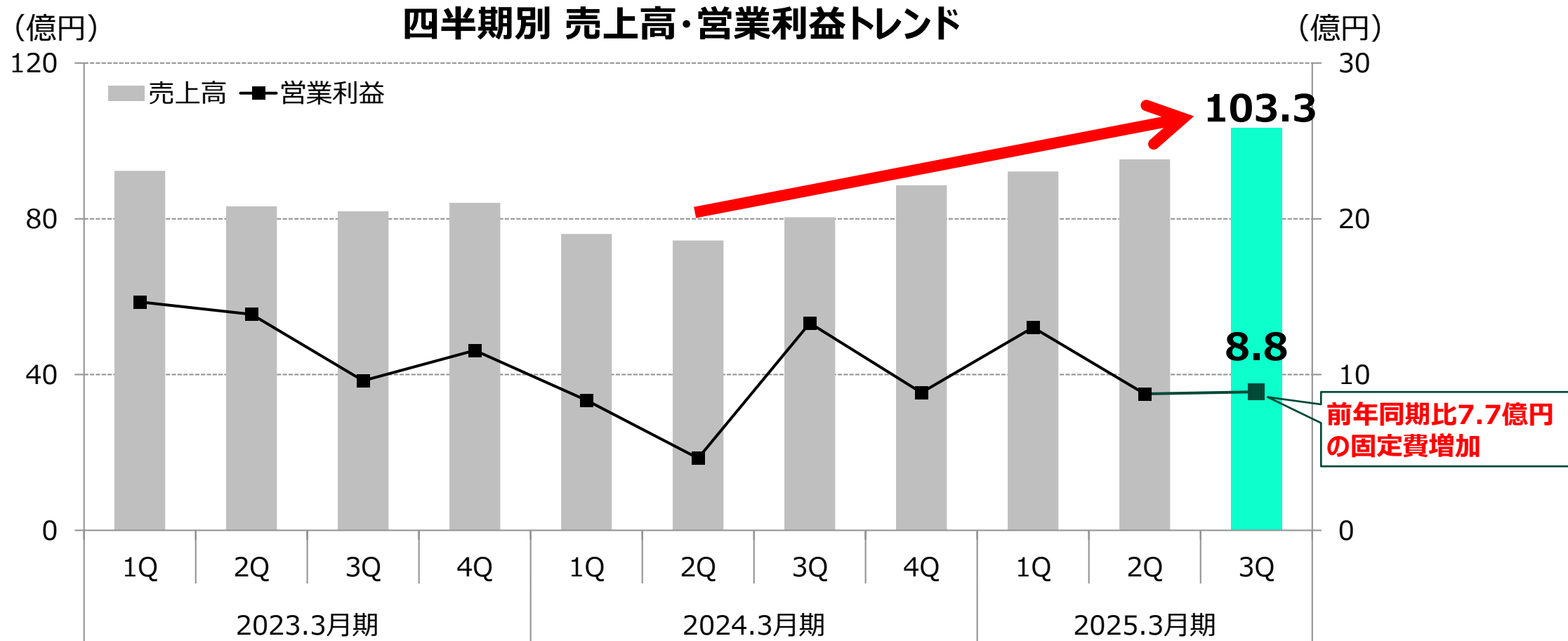
2025年3月期 第3四半期累計 営業利益 前年対比増減要因

- 販売増加により28.2億円の増益効果、増産に伴い原価は低減。
- 前年3Qは需要減退により原価が上昇。そのため前年対比では6億円の在庫評価減が発生。
- 今後の供給拡大に向けた新設備の完成や人員増により18.9億円の固定費増加。
- これらの費用増を吸収し、営業利益は30.6億円、前年比+17%の増益。
- 来期以降、投資効果拡大を狙う。

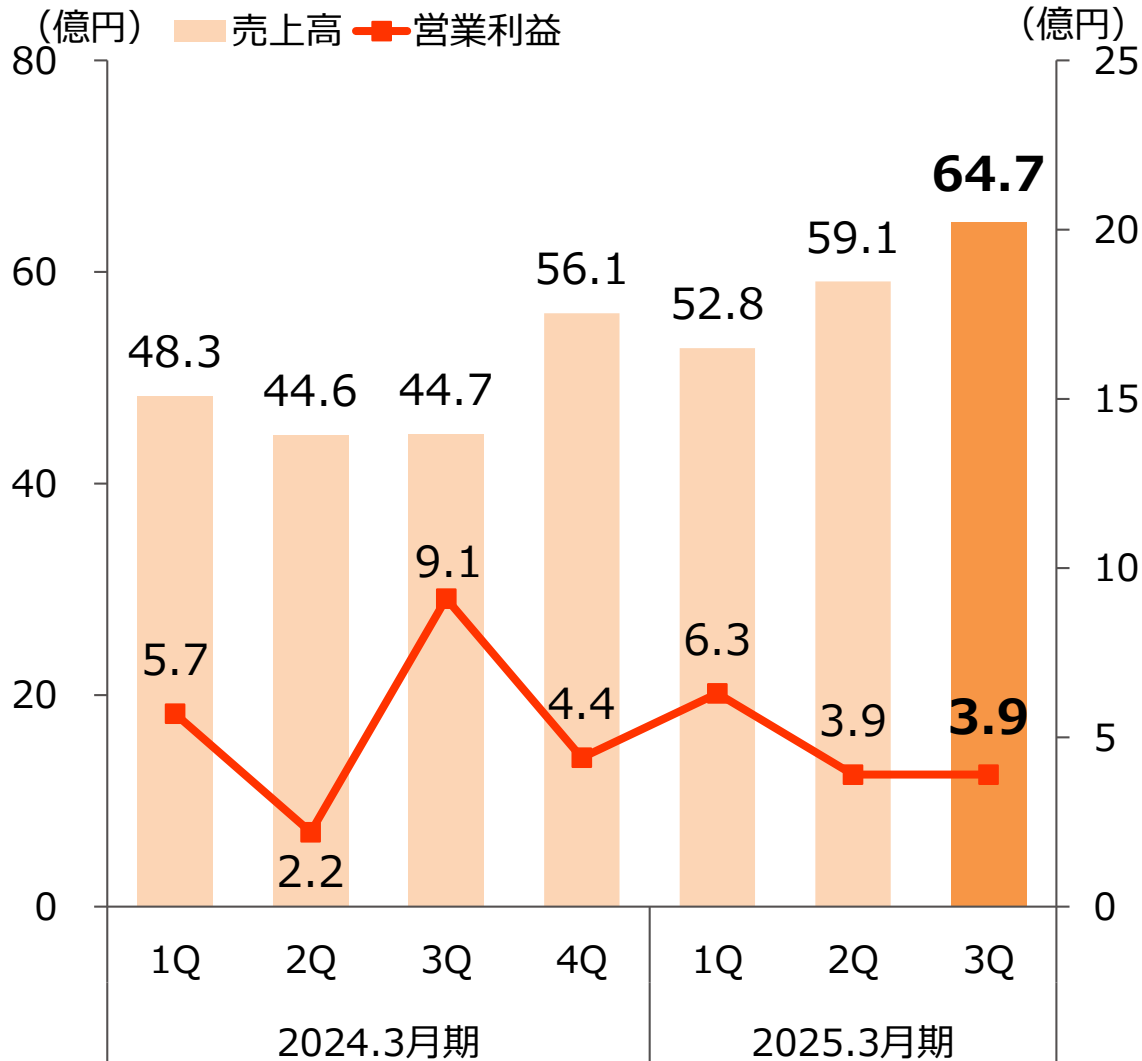


四半期別 売上高・営業利益トレンド

- 先端半導体向け材料の売上拡大などにより、四半期売上高は過去最高。
- 売上拡大により、新設備の完成に伴う固定費増を吸収し、利益を確保。



売上高・営業利益



3Q累計売上高: 176.7億円

(前年同期比 +38.9億円、+28%)

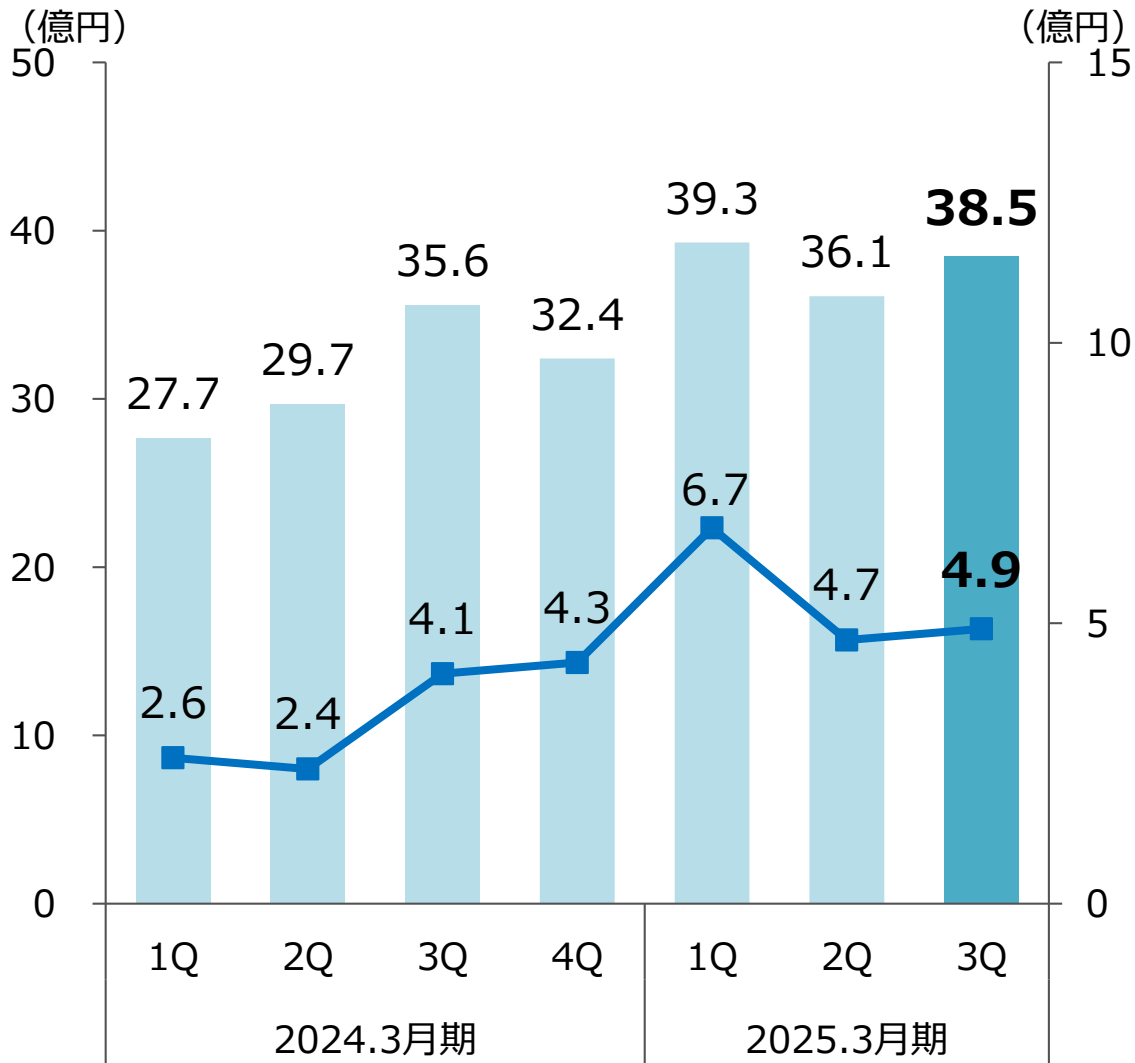
- 四半期売上高は過去最高を更新。
- 半導体向け材料は、AI関連投資を背景に先端分野の需要が増加し、売上拡大。
- ディ스플레이向け材料は、中国を中心にパネル生産が一定レベルに保たれ、当社の売上も堅調。

3Q累計営業利益: 14.2億円

(同 Δ2.8億円、Δ17%)

- 先端分野の供給拡大に向けた新規大型設備が完成し、固定費が増加。
- 先端向け材料の需要増により、利益水準を維持。

売上高・営業利益



3Q累計売上高: 113.9億円

(前年同期比 +20.7億円、+22%)

- 高純度溶剤は、半導体向けの需要増、電子部品向けの回復により売上増加。
- 香料材料関連は、需要回復が継続し、増収。
- タンクターミナル事業は、荷動きは低調だが、輸入品の増加からタンク契約率は高水準で推移。

3Q累計営業利益: 16.4億円

(同 +7.2億円、+79%)

- 高純度溶剤の売上増加等により大幅増益。

2025年3月期 第3四半期累計 損益計算書

- 売上高は、290.7億円(前年同期比+26%)。
- 売上総利益は、売上拡大により固定費増を吸収し、前年比+11.2億円(+20%)。
- 経常利益は、31億円、前年比+23%の増収。

(億円)	2024.3月期 3Q累計	2025.3月期 3Q累計	増減額	増減率	
売上高	230.9	290.7	+59.7	+26%	
売上原価	174.3	222.9	+48.5	+28%	
売上総利益	56.5	67.8	+11.2	+20%	← 売上総利益率 24.5%→23.3%
販売管理費	30.2	37.1	+6.8	+23%	
営業利益	26.2	30.6	+4.3	+17%	
営業外収益	1.1	2.0	+0.9	+77%	
営業外費用	2.1	1.7	△ 0.4	△20%	
経常利益	25.2	31.0	+5.7	+23%	← 経常利益率 10.7%
特別損益	△ 0.2	△ 0.8	△ 0.5	-	
税引前当期純利益	25.0	30.1	+5.1	+21%	
法人税等合計	7.7	9.3	+1.5	+20%	
当期純利益	17.2	20.8	+3.6	+21%	

2025年3月期 第3四半期 貸借対照表

- 販売拡大基調継続により運転資金は6.3億円の改善。(=売上債権+棚卸資産-仕入債務)
- 生産能力増強の設備投資により、有形固定資産は+41.9億円、借入金は+30.7億円。
- 純利益の増加により、株主資本は+17.6億円。自己資本比率は35.6%。

(億円)	2024.3月末	2024.12月末	増減額	(億円)	2024.3月末	2024.12月末	増減額
流動資産	226.8	246.2	+19.3	負債	376.9	426.5	+49.5
現金預金	36.4	35.8	△ 0.6	仕入債務	40.0	60.1	+20.0
売上債権	72.2	80.7	+8.4	借入金	220.0	250.8	+30.7
棚卸資産	103.3	108.6	+5.3	その他	116.7	115.4	△ 1.2
その他	14.7	20.9	+6.2				
固定資産	368.3	416.3	+48.0	純資産	218.2	236.0	+17.8
有形固定資産	338.6	380.6	+41.9	株主資本	216.3	234.0	+17.6
無形固定資産	15.7	22.7	+6.9	評価・換算差額等	1.9	2.0	+0.1
投資・その他	13.9	13.0	△ 0.8				
資産合計	595.1	662.6	+67.4	負債・純資産合計	595.1	662.6	+67.4

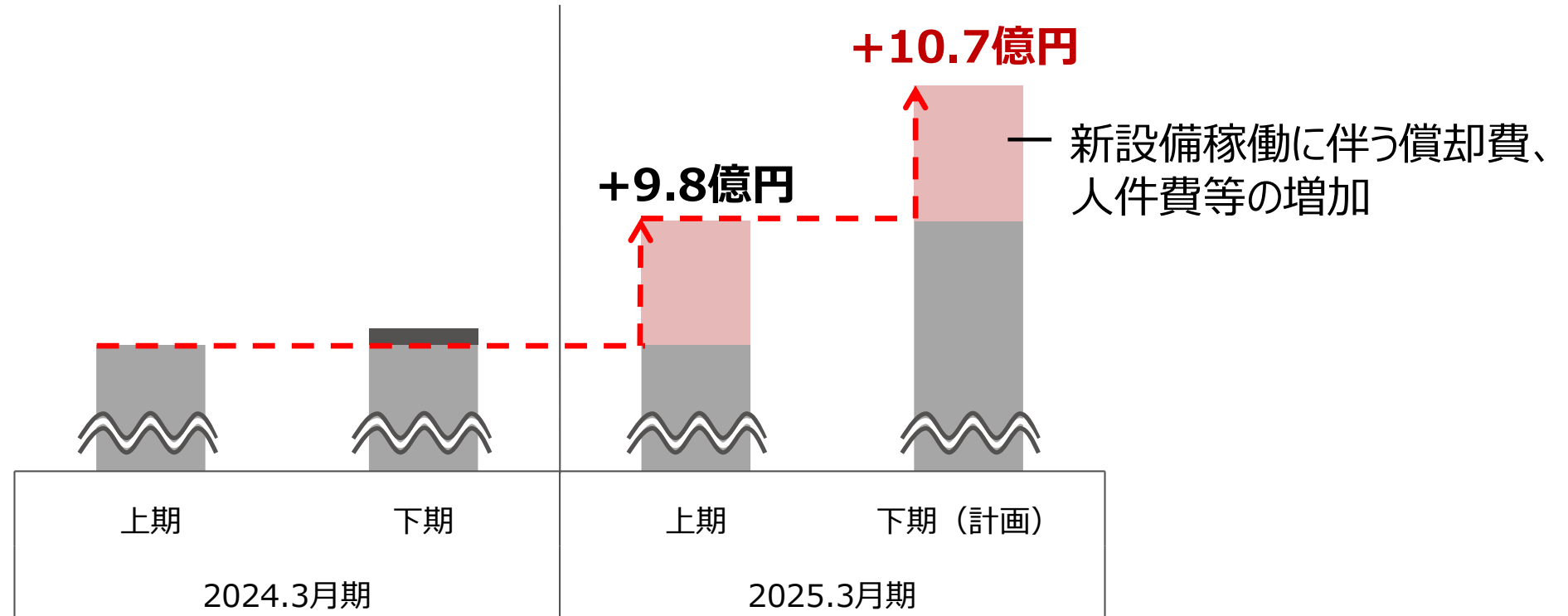
2025年3月期 通期 業績予想値と3Q進捗状況

- 通期業績予想値に対する3Q進捗率は、売上高76%、営業利益85%、経常利益89%、純利益は83%。
- 4Qも引き続き、新設備稼働に伴う固定費増を想定。
- 来期以降、投資効果拡大を狙う。

	2025.3月期 通期業績予想値 (億円)	2025.3月期 3Q累計実績値	進捗率
売上高	382.0	290.7	76%
営業利益	36.0	30.6	85%
経常利益	35.0	31.0	89%
純利益	25.0	20.8	83%
為替レート (USD)	¥148/\$	¥152/\$	

- 下期は新設備稼働開始に伴う償却費や人件費の増加により、上期に比べ10.7億円の固定費増加を見込む。

生産能力増強による固定費増加



再掲) 大型設備投資の進捗

※期初計画から変更なし

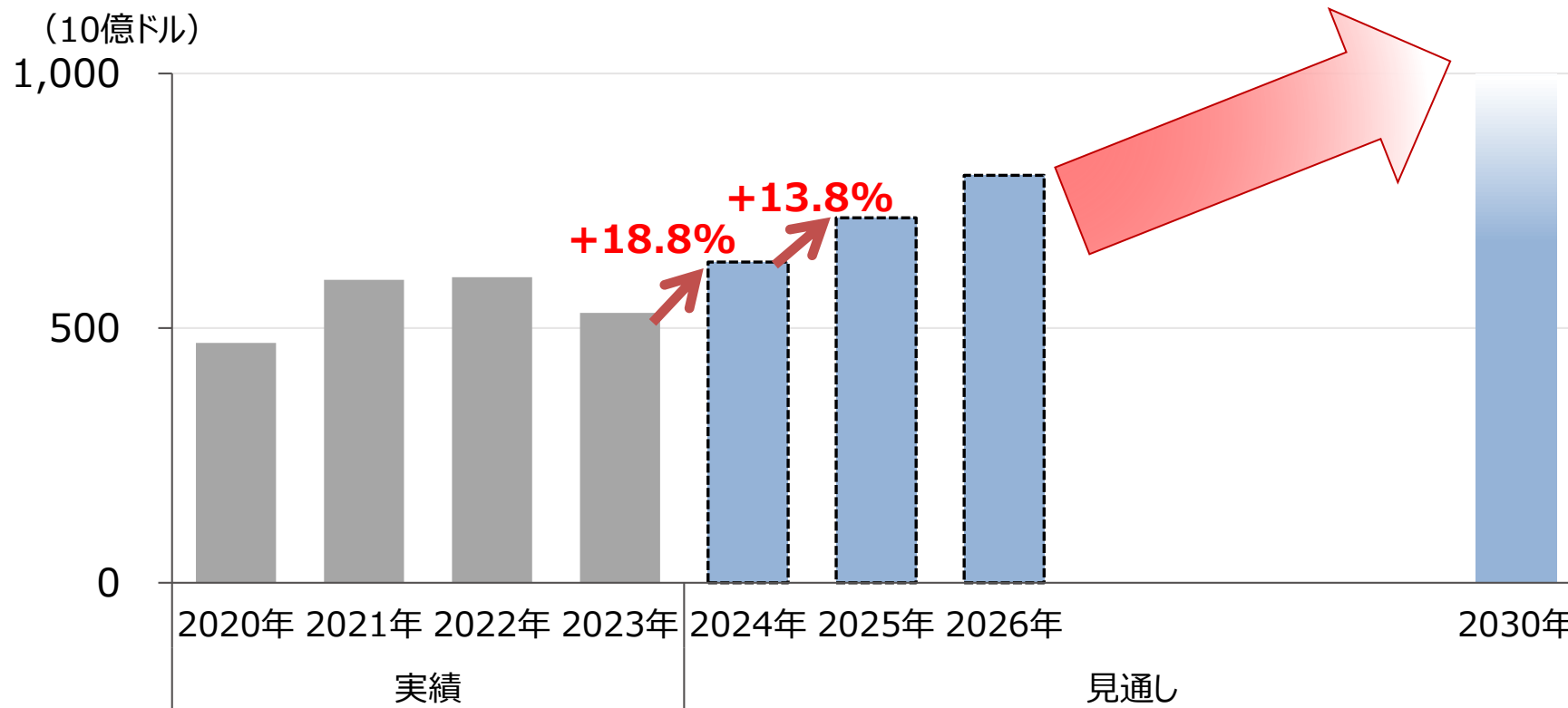
- 2024年9月に千葉工場 第4感光材工場 ArF、EUV向け材料の生産能力を1.8倍とする新設備が完成。Beyond500(現中計)における生産能力増強 大型設備は、上期中にすべて完成。
- 新設備は量産稼働に向け、計画通り進行中。



再掲) 今後の半導体市場の見通し

- 2024年の世界半導体市場は18.8%成長、2025年も13.8%成長と市場拡大継続の予測。
- 2026年以降も成長を続け、2030年までに1兆ドルに成長する見通し。

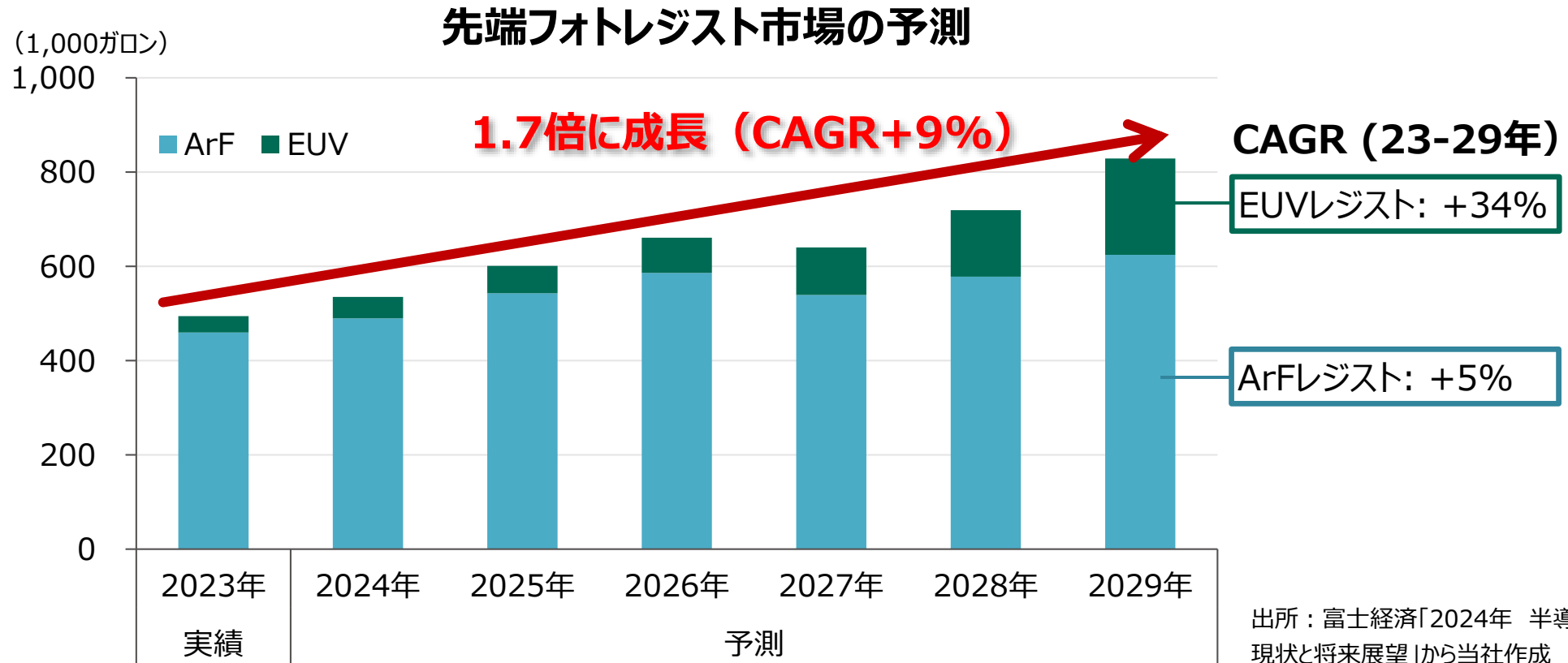
半導体市場の長期予測



出所：Techcet、Gartner資料から当社作成

再掲) 今後の先端フォトレジスト市場の見通し

- 2023年-2029年 EUV用レジストの需要量は、年平均34%成長で、6倍に成長見込み。
- EUV、ArF用レジストの合計需要量も1.7倍に拡大見込み。
- 千葉工場 第4感光材工場 能力増強の完成により、当社キャパシティは1.8倍に拡大。



独創的な視点で世界へ

Individual Development, to the global Chemical



東洋合成工業株式会社

(見通しに関する注意事項)

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクにより、この業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。